

青年海外協力隊 北海道 OB 会会長賞
私ができる小さなこと

更別村立更別中央中学校 2年
赤澤 麻奈美

私は、小学校の時に日本へ研修に来た人たちと交流をしたことがあります。一人ずつ自分の国のことを話してくれたり、ゲームなどを一緒にしたりと、色々な交流をしました。当時は JICA のこともよく知らずにいましたが、テレビやインターネットなどで貧しい国や子どもを知り、今まで何も知らずとしなかった自分を恥ずかしく思いました。

当然のように飲んでいる水、当然のように使っている電気、これらのように私たちが生活の中で当たり前だと思っていることは本当に当たり前なことなのでしょう。世界には何十キロも歩いて水をくみにいかなければ水を手に入れることができない人達が大勢います。こうして苦労して手に入れた水も必ず安全というわけではありません。泥水を飲んでしまい思い病にかかってしまうこともあり、それを治す薬も買えず、苦しみに喘ぐ人々が多く暮らしています。

どうにかして、この人達を貧しい生活から少しでも救うことができるのかと、色々考えてみました。ですが、日本に住んでいる私にできることは限られています。そんな時、私はペットボトルキャップがワクチンになることを知りました。そして、私の住んでいる地域でもペットボトルキャップを集めていることが分かりました。「私にもできることがある。私にも役に立てることがあるのだ」ととてもうれしくなりました。

他にも、お店で貧しい子ども達への募金箱に、買い物で余ったお金を入れました。入れたお金は少なかったけど、少しでも役に立てれば、という思いをこめて入れました。このことで、量は大切だけど、それ以上に思いをこめることが何よりも大切だと気づくことができました。

私は今まで、人を救うことは大変なこととどうせ自分なんかにはできっこないと思いきみ、どこか心の中であきらめていました。ですが、自分から関わろうともしないで人を救えるはずなんかないんだと気づきました。私にしかできないことをいつか見つけて、発展途上国の人たちを支えてあげたいです。